

新倉庫が完成、保管能力は約3000トン

水中切ファイバーレーザー機新設でロス率低減へ

桂スチール(兵庫)

大手ビルトH形鋼メーカー、桂スチール(本社・兵庫)を新設、友延工場(岡山県姫路市、三木伸一社長)はこのほど、第2工場(岡山県備前市)の隣接地で進めていた倉庫の建設が完了した。また、同敷地内に来年6月ごろ完成予定の新倉庫の建設計画も明らかにした。そのほか、第5工場(同市)に水中での形状切断が可能となるファイバ

ーレーザー機(コマツ産)を増設して2台体制とした。今回完成した倉庫はスパン19.5m×長さ85mの規模で、天井クレーン数基(4・8t吊り、10t吊り、20t吊りなど)を設置。工程ずれによる製品置き場の確保とともに、2024年問題に

関わる積み込み時時間短縮などへの対応策として建設したものの、母材、製品の保管能力は約3000トン。こうした倉庫機能の充実をさらに進めるため、現倉庫の横にも新たに倉庫(19.5m×100m規模の予定)を建設する計画で、ここに反転スカラップ用の開先加工機

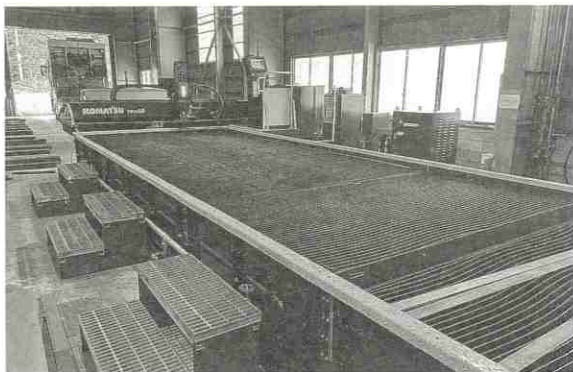
第5工場に設置した水中切ファイバーレーザー機は国内での設置は2台目。コマツ産機が今年1月から本格的に販売開始しており、母材加工の生産性と歩留まりの向上、加工全体のロス率低減が目的で、ビルトH用の切板や小板加工用に活用していく。友延工場に増設したフレームプレーナー

3工場(同市)では変形ビルトH用の開先加工機を1台増設して2台体制にする。同時に、1500mmタイプの切断機と孔あけ機を新設。現在、月間加工量は平均6000トンだが、当面は鉄骨需要の端境期が続くものと判断し、5000〜5500トペースの推移を予測。「今後の需要動向に合わせ、大型サイズや変形物などより難易度の高い製品の比率が高くなる。働き方改革の実施により職場環境の改善を進め、各機能の充実に図りながら、顧客のあらゆるニーズに応えていく」との方針だ。



完成した新倉庫

今回完成した倉庫はスパン19.5m×長さ85mの規模で、天井クレーン数基(4・8t吊り、10t吊り、20t吊りなど)を設置。工程ずれによる製品置き場の確保とともに、2024年問題に関わる積み込み時時間短縮などへの対応策として建設したものの、母材、製品の保管能力は約3000トン。こうした倉庫機能の充実をさらに進めるため、現倉庫の横にも新たに倉庫(19.5m×100m規模の予定)を建設する計画で、ここに反転スカラップ用の開先加工機



国内2台目となる水中切ファイバーレーザー機